



Title	俳句
Author(s)	古谷, 美津女
Citation	懐徳. 1936, 14, p. 84-85
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88964
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

足音のして短夜の夢淡し

清瀧神社

くみあげて尊き清水いたゞきぬ
下山

半ば下りて汗ふきぬ皆と掬む水に

飛鳥文化展を観て

親と居て春の御佛おがむなり

大和樂師寺

二句

この寺の螢見ぬこそ惜しきかな
ふりそゝぐ梅雨ひとゝぎのしづけさよ
野のはてと思ふあたりを秋の雲
秋風や人なつかしう山下る

村井多喜女

雲低し春來し色の野の木立

古谷美津女

梅の寺下るに會ひけり大観
アカシヤの花かき立てゝ雨となる
藤の豆風にをりく現はれし
苔の花つくばうて見て美しき

懷德堂秋季開講

二句

新涼や素讀の聲に力ある
道を聽く人のふえけり秋涼し
生駒山麓

瓦焼く煙の見えて春の雨
雨の煙れる松や鳥の聲
藥師寺

三井寺の新茶香はし力餅

藤

塚

紅

果